

データドリブン 経営を目指して



大石 八治さん (DXスクール受講生)

物流・倉庫業のロジネットサポート。大石社長は、経営者として会社を良くするためには何が必要かを考え、DX推進に取り組み始めました。データドリブン経営の実践を目標に、基幹システムの環境整備に踏み出しました。

会社を良くする施策のひとつとして「DX」

物流業界は特性上、人海戦術に頼る部分が多い一方で、労働人口は減少しています。そのため、「いかに効率を上げるか」が経営における課題となっています。その打開策として、DXに取り組もうと考えました。

また、DX推進を行う上で経営者自身がDXを理解し、先頭に立って取り組む姿勢を社員に示すことが不可欠と考え、DXスクールに参加しました。

システム導入成功のカギは丁寧な事前説明

まずは会社で使用しているシステムの見直しを行いました。これまでは事業ごとにシステムが分かれていたため、請求業務の際にそれぞれのデータを手動でまとめ、会計ソフトへ入力し直す手間が発生していました。

そこで、ノーコードツール「CELF」で開発した「基幹システム」を導入し、＜運送・倉庫・流通加工＞の3つの事業情報の集約に取り組む

ことにしました。

また、システム導入にあたり、社内外に丁寧な事前説明を徹底したことで、顧客からは事務処理簡略化への好意的な声を、社内からは手動作業削減による業務効率化への期待が寄せられています。

DX事例

基幹システムの導入

事業ごとに異なるシステムを使用
請求業務にてデータを手動集計

▼
基幹システムの導入により
各システム情報の集約・自動化

DXによって見えてくる新たなビジネスモデル



情報管理の基盤が整ったら、ノーコードツール「Microsoft365」などを利用し、蓄積されるデータに基づく「データドリブン経営」の実践を目指しています。社員一人ひとりが会社の強みや商品をよ

り理解することで、自発的に新しいアイデアや工夫が生まれるようなマインドセットができることを期待しています。

データ分析の習慣から、他社と差別化できる新しいサービスやビジネスモデルを創出することが最終目標です。

ふじえだDXリーダーズ プロフィール

- 【氏名】 大石 八治 (おおいし はちじ)
- 【所属・担当】 株式会社ロジネットサポート / 代表取締役
- 【IT経歴】 代表自らDXスクールに参加し、学び続ける姿勢で組織をリード。既存システムの課題を見極め、基幹システムによる「継ぎ足しシステム」の統合を推進しながら、データドリブンによる物流経営への変革を牽引している。

活用している
DXツール

- CELF
(ノーコードツール)
- Microsoft 365